

副業の実態と課題

東洋大学

川上 淳之

報告の内容

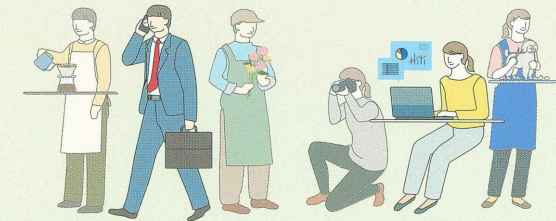
1. 副業への関心の高まり
2. 統計からみる副業の多様性
3. 副業を保有する要因
4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか
5. 副業と幸福感
6. これまでの研究のまとめ
7. コロナ禍以降の副業
 - 副業を認める企業の推移（「CSR調査」から）
 - 「家計調査」雇用副業率の推移
 - 「就業構造基本調査」の変更

「副業」の研究

多様性がもたらす影響と可能性

Kawakami Atsushi

川上淳之 [著]



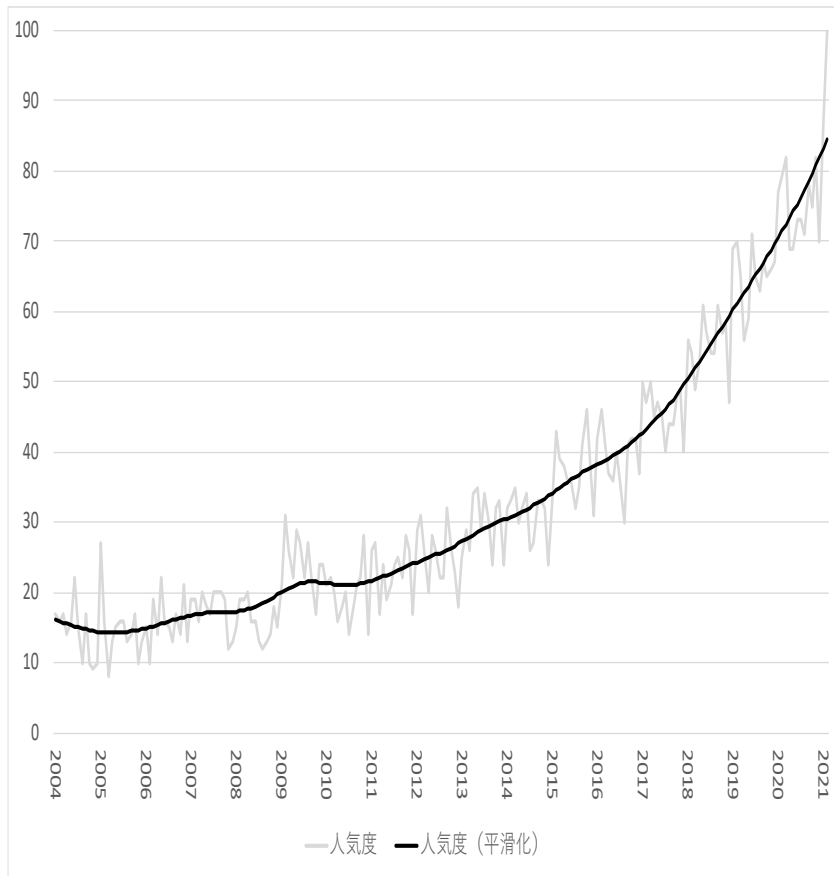
慶應義塾大学出版会

1. 副業への関心の高まり

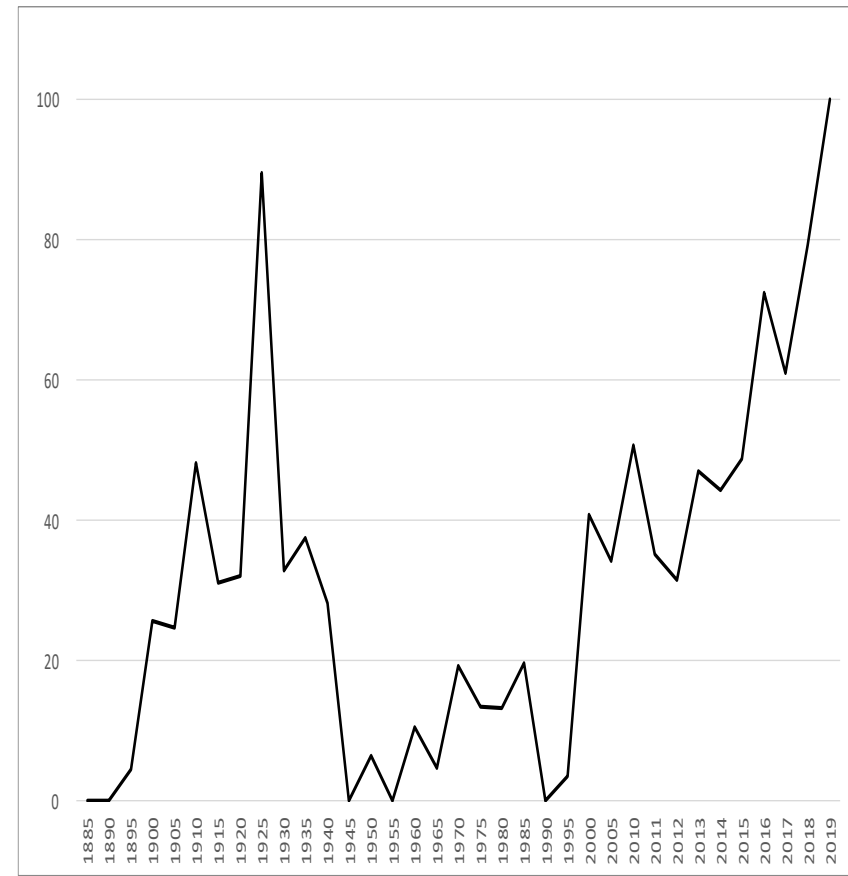
- 首相官邸「働き方改革実行計画」（2017年3月）
 - 柔軟な働き方がしやすい環境整備
 - 副業や兼業は、新たな技術の開発、オープンイノベーションや起業の手段、そして第2の人生の準備として有効である。我が国の場合、テレワークの利用者、副業・兼業を認めている企業は、いまだ極めて少なく、その普及を図っていくことは重要である。
- コロナ禍以降
 - テレワークの普及による副業の利便性
 - 企業業績の悪化による、ワークシェアリングとしての副業（リーマンショック期の製造業）

1. 副業への関心の高まり

- 副業に対する関心の高まり（google trends人気度, 朝日新聞記事人気度）



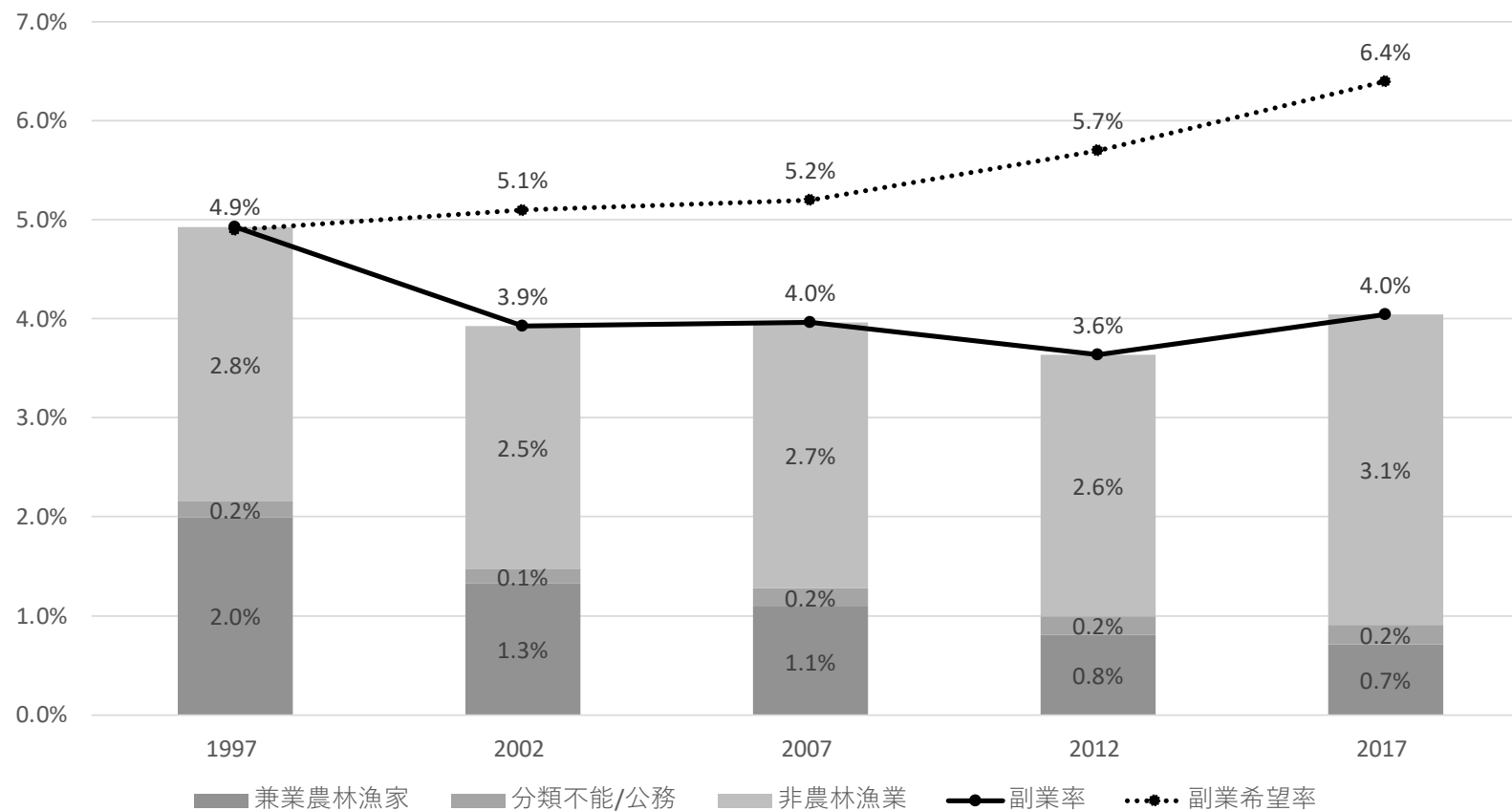
出所) google trendsより筆者が作成



出所) 朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱ」

2. 統計からみる副業の多様性

- 副業率の推移。兼業農家の減少



出所) 総務省「就業構造基本調査」より作成。副業率は有業者に占める雇用で副業を持つ割合。

2. 統計からみる副業の多様性

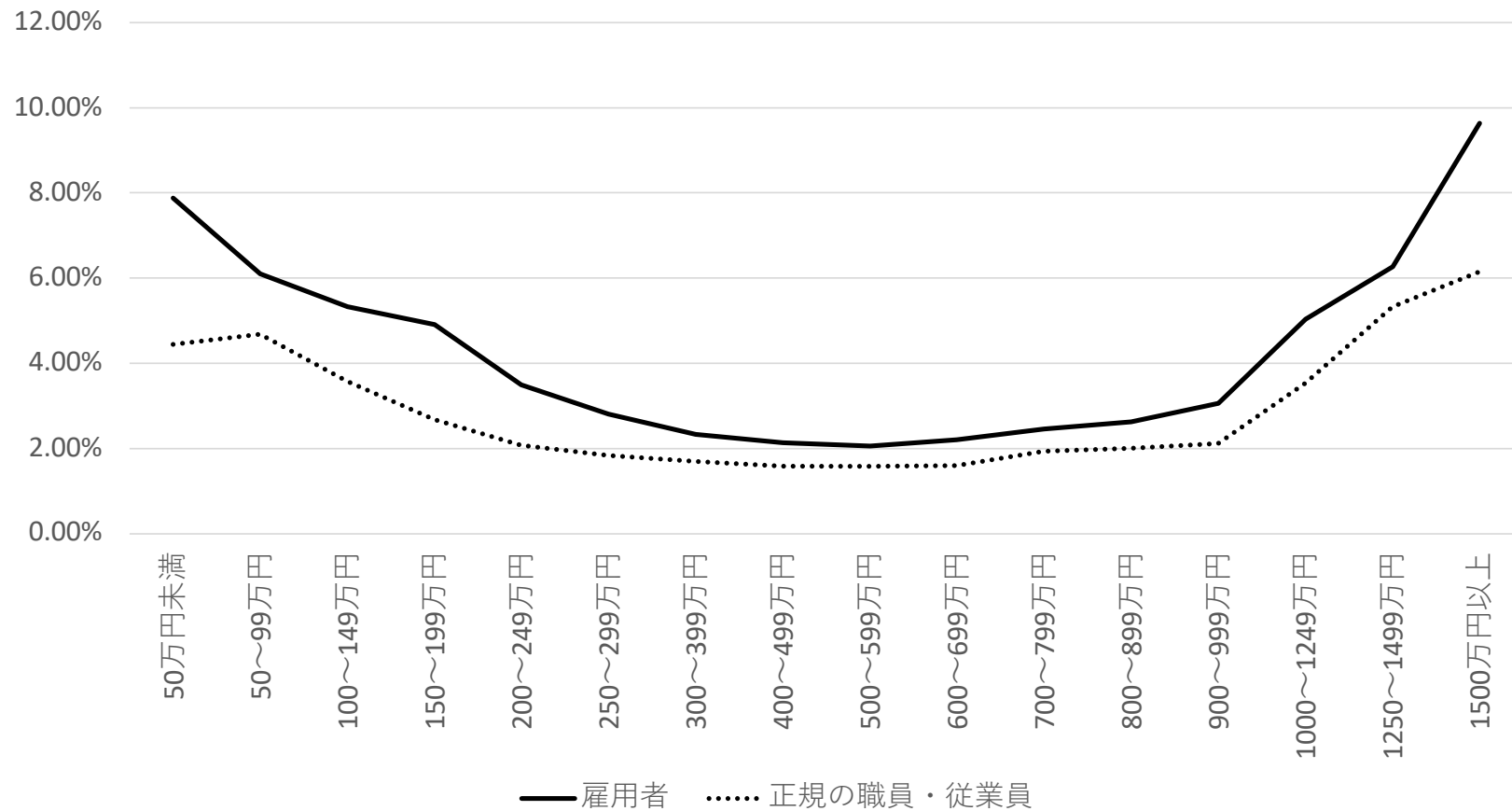
		(千人)			
本業	副業	1997年		2017年	
総数		3302	(100.0%)	2678	(100.0%)
産業の区分					
兼業農林漁家		1288	(39.0%)	445	(16.6%)
農林漁業	農林漁業	111	(3.4%)	53	(2.0%)
農林漁業	非農林漁業	206	(6.2%)	85	(3.2%)
非農林漁業	農林漁業	971	(29.4%)	307	(11.5%)
非農林漁業	非農林漁業	1910	(57.8%)	2079	(77.6%)
公務		80	(2.4%)	52	(1.9%)
分類不能		28	(0.8%)	103	(3.8%)
従業上の地位の区分					
自営業主		442	(13.4%)	303	(11.3%)
自営・家族	自営・家族	230	(7.0%)	112	(4.2%)
自営・家族	雇用者	212	(6.4%)	192	(7.2%)
雇用者		1462	(44.3%)	1741	(65.0%)
雇用者	自営・家族	619	(18.7%)	539	(20.1%)
雇用者	雇用者	843	(25.5%)	1202	(44.9%)
雇用形態の区分					
正社員				491	(18.3%)
パート・アルバイト				751	(28.0%)

出所) 総務省「就業構造基本調査」より作成

- 副業の構成比
 - 副業に占める兼業農家の割合16.6%。
 - 雇用者の副業は65.0%
 - 正社員18.3%
 - 非正社員46.7%
 - パート・アルバイト28.0%
- 副業率も雇用形態で違う
 - 正社員で副業を持つのは1.53%
 - 役員は7.7%
 - パート4.95%、アルバイト6.79%

2. 統計からみる副業の多様性

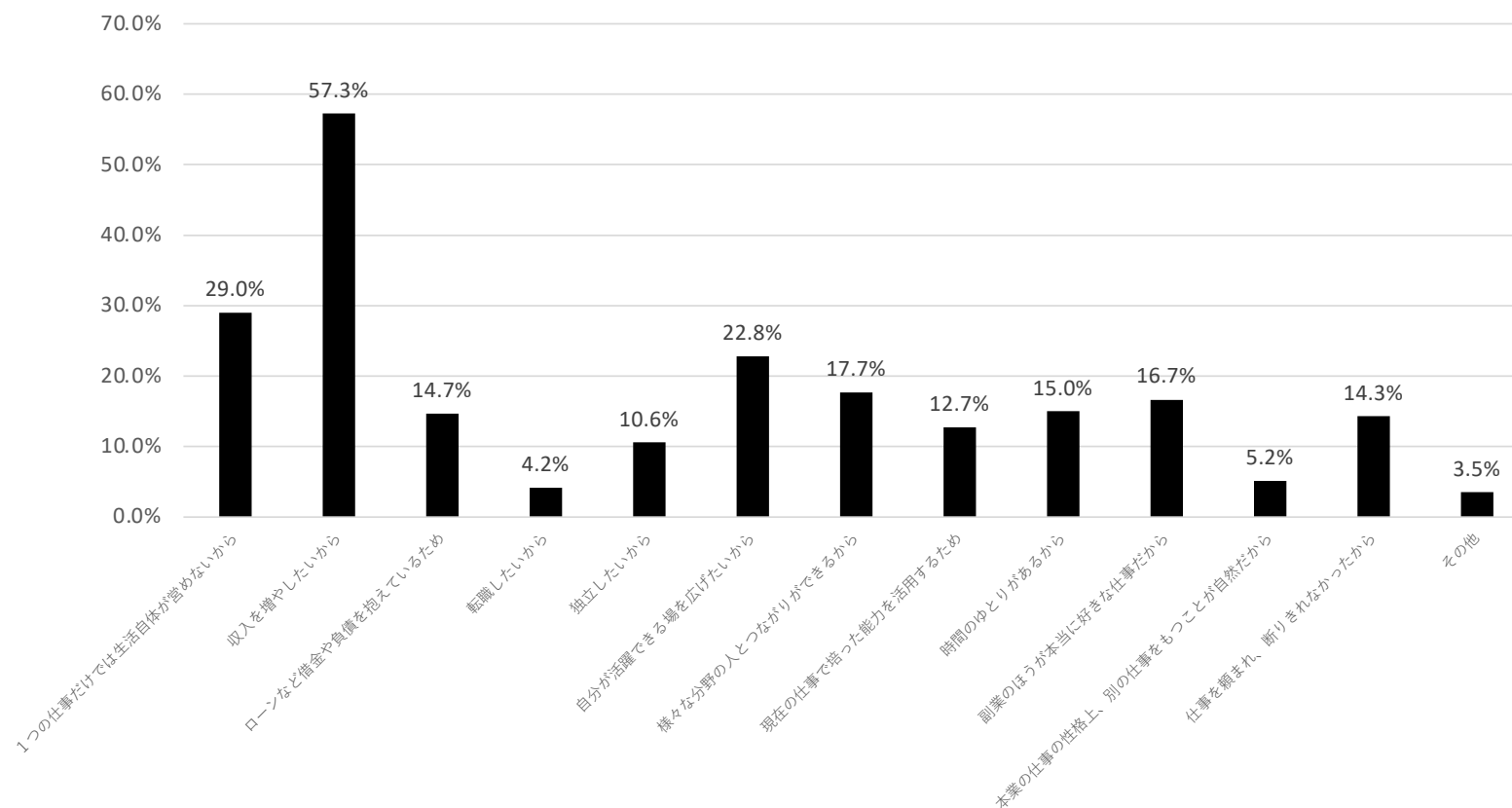
- 本業の年収別副業率



出所) 総務省「就業構造基本調査」より作成

2. 統計からみる副業の多様性

- 副業保有の理由（複数回答）



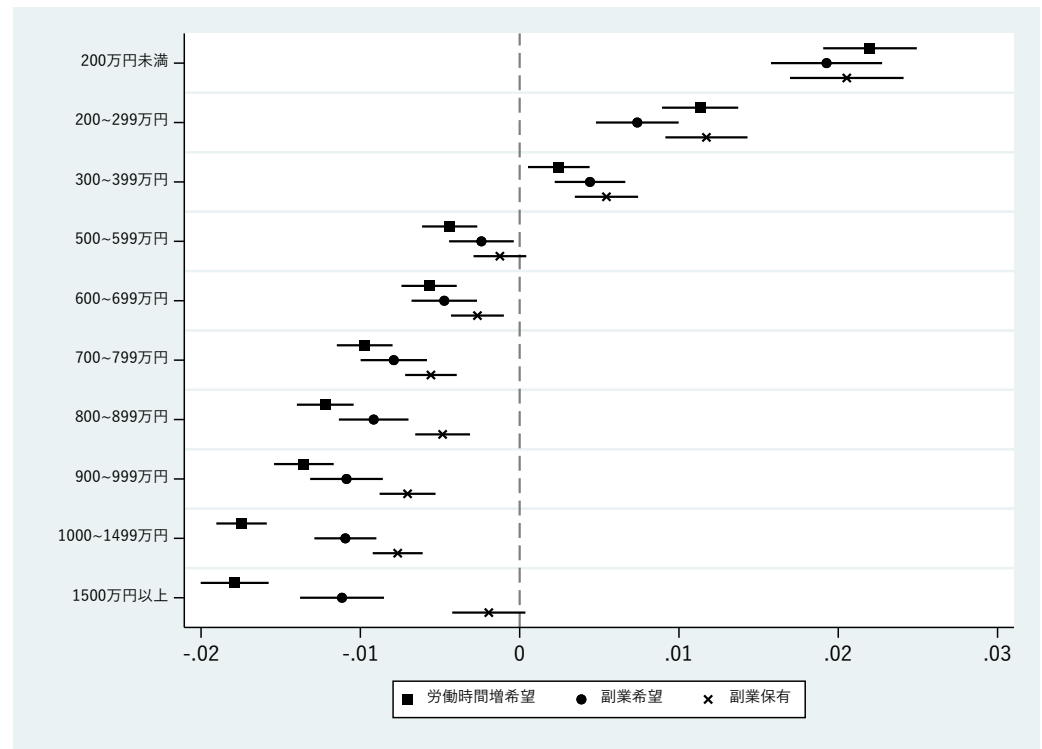
出所）川上（2017）より作成。労働政策研究・研修機構「副業の就労に関する調査」

3. 副業を保有する要因

- 総務省「就業構造基本調査」
 - 匿名データ、1992-2009年
- 本業の賃金率・労働時間・不労所得の低下で副業保有が高まる
 - 副業の保有よりは、本業の労働時間増を望む傾向
- 世帯所得との関係
- 家族類型との関係

3. 副業を保有する要因

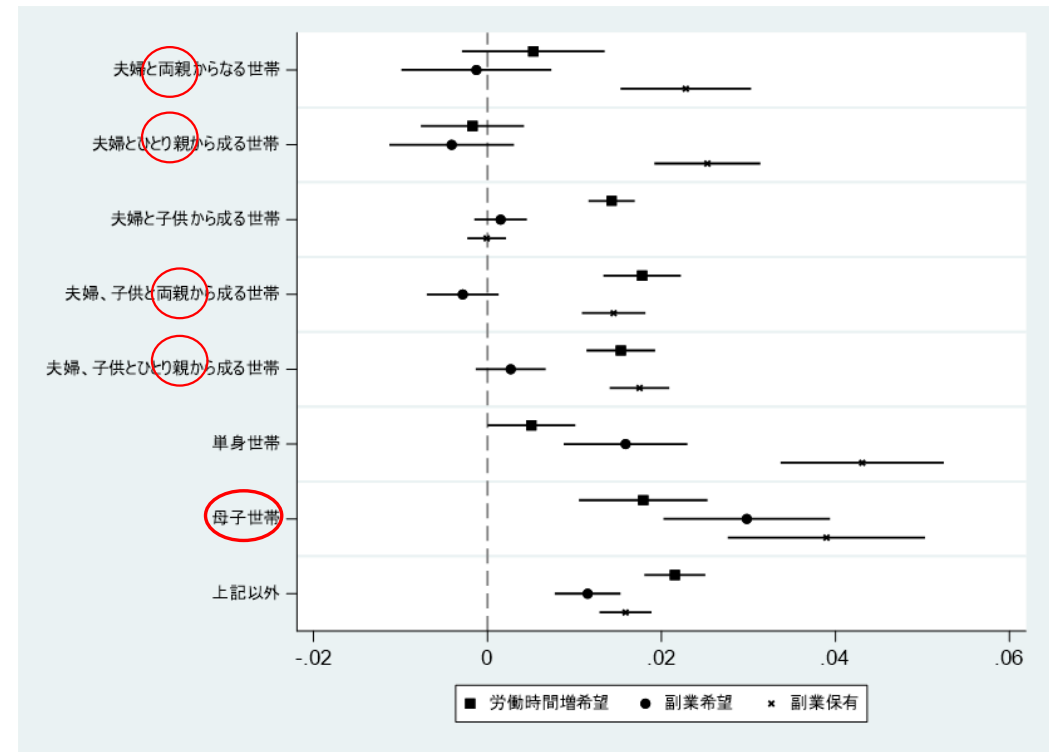
- 世帯所得との関係
 - 前の推定の4つの変数を世帯所得に置き換えて再推定
 - 図は、推定結果から予測値を推計した結果（基準は世帯所得400-499万円）
 - 200円未満の層で副業を保有する確率が最も高くなっている
 - ワーキングプア層で副業が持たれる傾向がみられる



3. 副業を保有する要因

- 家族類型との関係
 - 家族類型に変更して推定（夫婦のみの世帯を基準）
 - 親と同居する場合に副業を持っている割合が高い（男性）
 - 女性も親と同居しているときに副業を持つ割合が高まる。
 - 母子世帯も保有割合が高まる
- 非金銭的目的の副業は、本業の属性などとの相関はみられない（第5章）

女性の推定結果



4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか

- Panos et al. (2014)

- イギリスのパネルデータ（BHPS）から、本業と異なる職業の副業を持っていたときに転職を通じて収入の増加やスキルの向上がみられる。Step stone効果

- Kawakami (2019)

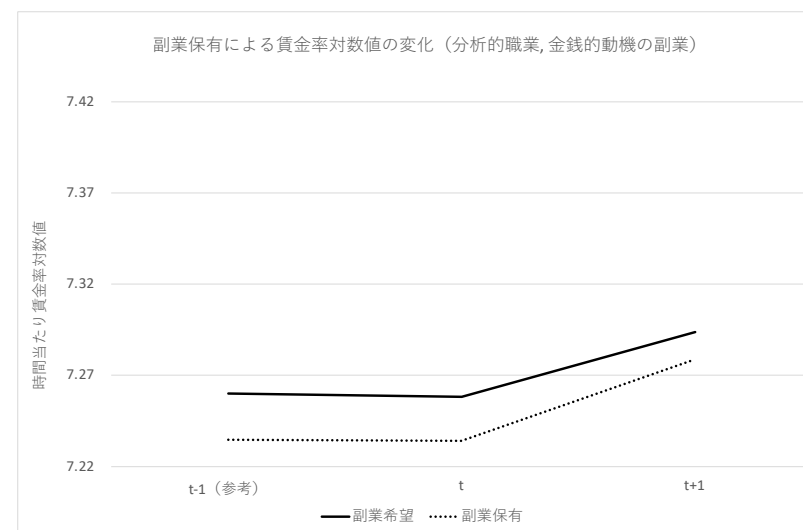
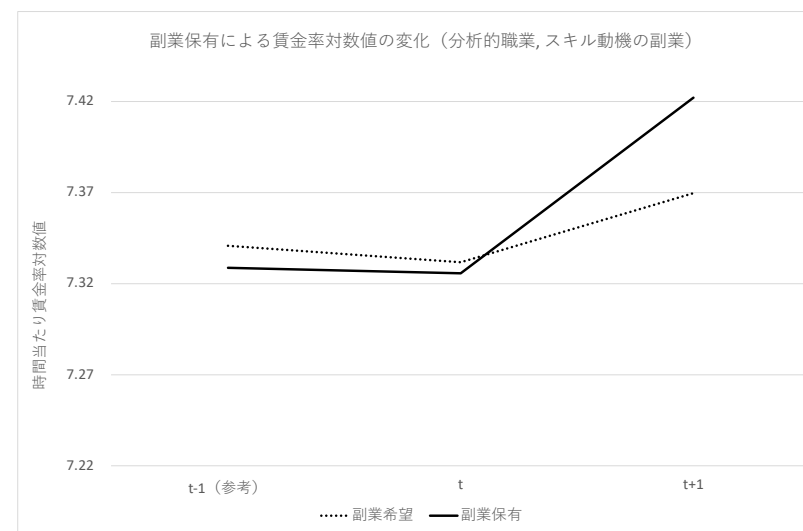
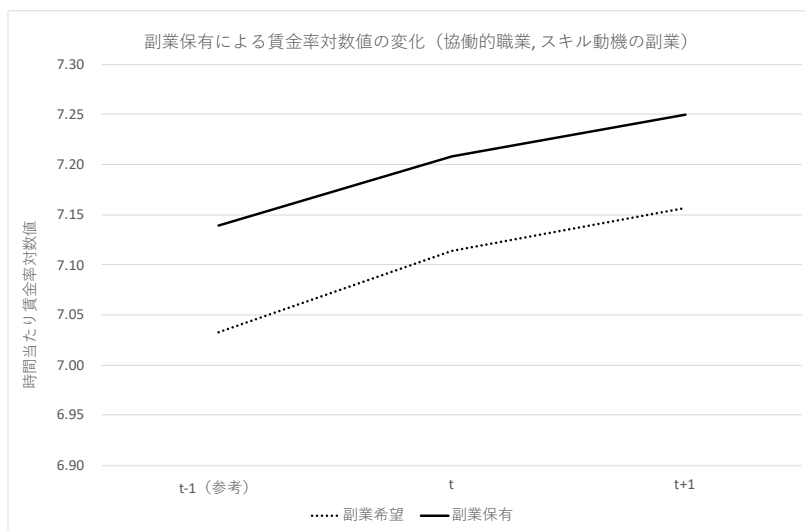
- 「日本家計パネル調査（JHPS/KHPS）」を用いて、副業の保有が本業の賃金率に与える影響を推定。
- 雇用形態別、本業の職業別（分析的職業、協働的職業、運動的職業）
- Difference GMMによる推定
- フルタイム労働者で分析的職業の場合に賃金率が高まるという結果

4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか

- 本業の職業に加えて、副業の保有動機の違いもみる
- リクルートワークス研究所「全国就業実態パネル調査」
 - 毎年1月実施、サンプルサイズ62415（2019年調査）
 - インターネットモニター調査
 - 副業希望・保有、希望・保有する理由、労働時間、仕事の内容など
 - ⇒ 仕事内容に「アンケートの回答」が含まれるケースは除く
- 副業希望と保有の比較
- 傾向スコアマッチングとDifference-in-difference
 - 2018年の賃金率と2019年の賃金率の対数差分
 - 2019年調査の前年と比べたスキルアップ・スキルダウンの実感

• 推定結果

	分析的職業 & スキル動機	協働的職業 & スキル動機	分析的職業 & 金銭的動機
副業保有vs副業希望	0.0579 ** 2.39	-0.00159 -0.06	0.0103 0.53
観測数	597	594	923



4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか

	分析的職業 & スキル動機		協働的職業 & スキル動機		分析的職業 & 金銭的動機	
	レベルアップ を実感	レベルダウン を実感	レベルアップ を実感	レベルダウン を実感	レベルアップ を実感	レベルダウン を実感
副業非希望vs副業希望	-0.126 *** -5.49	-0.040 *** -2.61	-0.106 *** -4.77	-0.023 -1.62	-0.034 * -1.95	-0.045 *** -3.53
副業保有vs副業希望	-0.020 -0.30	-0.079 ** -2.54	0.139 1.47	-0.023 -0.62	0.025 0.50	-0.007 -0.18

実感している割合						
副業非希望	22.10%	7.60%	21.80%	8.10%	22.10%	7.60%
副業希望	34.70%	11.60%	32.40%	10.50%	25.60%	12.00%
副業保有	32.70%	3.70%	46.30%	8.20%	28.00%	11.40%

観測数	2946	2946	3082	3082	3289	3289

4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか

	分析的職業 & スキル動機		協働的職業 & スキル動機		分析的職業 & 金銭的動機	
	レベルアップ	レベルダウン	レベルアップ	レベルダウン	レベルアップ	レベルダウン
	を実感	を実感	を実感	を実感	を実感	を実感
① 副業希望者は非希望者と比べて仕事のスキルがレベルアップと感じている人もレベルダウンを感じている人もいる。						
副業非希望vs副業希望	-0.126 *** -5.49	-0.040 *** -2.61	-0.106 *** -4.77	-0.023 -1.62	-0.034 * -1.95	-0.045 *** -3.53
副業保有vs副業希望	-0.020 -0.30	-0.079 ** -2.54	0.139 1.47	-0.023 -0.62	0.025 0.50	-0.007 -0.18
実感している割合						
副業非希望	22.10%	7.60%	21.80%	8.10%	22.10%	7.60%
副業希望	34.70%	11.60%	32.40%	10.50%	25.60%	12.00%
副業保有	32.70%	3.70%	46.30%	8.20%	28.00%	11.40%
観測数	2946	2946	3082	3082	3289	3289

4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか

	分析的職業 & スキル動機		協働的職業 & スキル動機		分析的職業 & 金銭的動機	
	レベルアップ	レベルダウン	レベルアップ	レベルダウン	レベルアップ	レベルダウン
	を実感	を実感	を実感	を実感	を実感	を実感
① 副業希望者は非希望者と比べて仕事のスキルがレベルアップと感じている人もレベルダウンを感じている人もいる。						
副業非希望vs副業希望	-0.126 *** -5.49	-0.040 *** -2.61	-0.106 *** -4.77	-0.023 -1.62	-0.034 * -1.95	-0.045 *** -3.53
副業保有vs副業希望	-0.020 -0.30	-0.079 ** -2.54	0.139 1.47	-0.023 -0.62	0.025 0.50	-0.007 -0.18
② 分析的職業 & スキル動機の副業では、レベルダウンの実感について改善がみられる						
実感している割合						
副業非希望	22.10%	7.60%	21.80%	8.10%	22.10%	7.60%
副業希望	34.70%	11.60%	32.40%	10.50%	25.60%	12.00%
副業保有	32.70%	3.70%	46.30%	8.20%	28.00%	11.40%
観測数	2946	2946	3082	3082	3289	3289

4. 副業は本業のパフォーマンスを高めるのか

- 越境的学習による解釈（中原, 2010; 石山, 2018）
 - 経験を通じた学習の効果
 - 学習者自身が準拠する空間から離れて得た経験からの学習を越境的学習という
 - 広義では、職場内の研修や学生の学外の実習も。
 - 業務経験 + 内省のサイクル

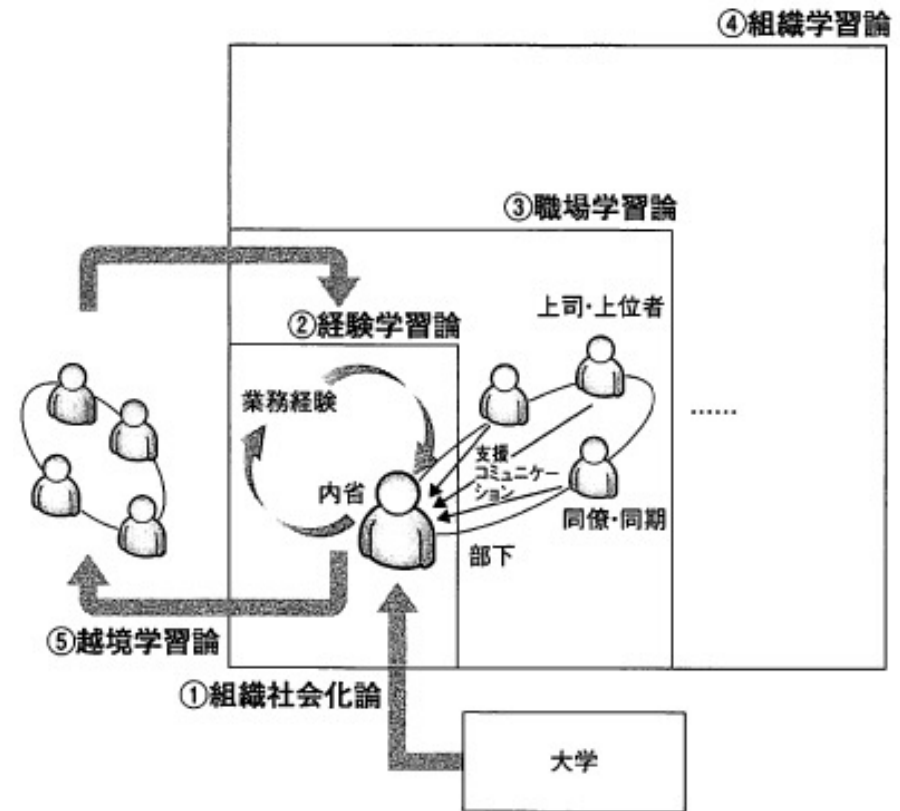
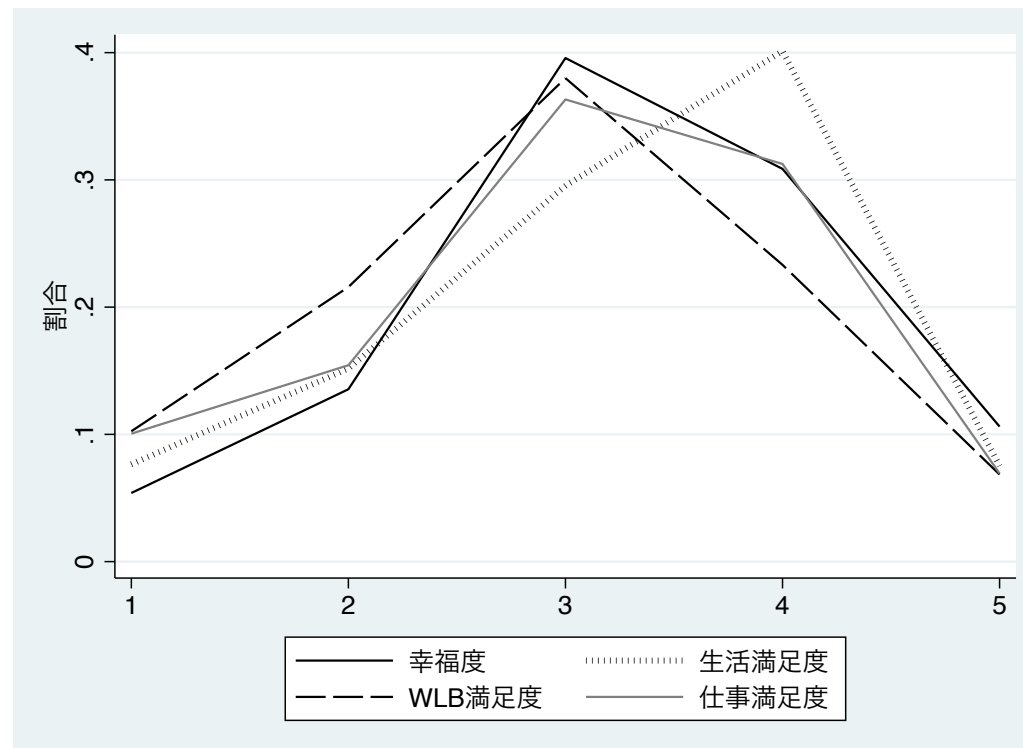


図6 今後の研究の方向性を示す概念図

出所) 中原 (2010) より引用。

5. 副業と幸福感

- ワークス研究所「全国就業実態パネル調査」2018, 2019年
 - ウェル・ビーイングについて五段階で回答
 - 回答の言葉は異なる「5点 とても幸せ」「満足していた」「あてはまる」「1強く感じていた」
幸福度 生活満足度 仕事満足度 WLB満足度



5. 副業と幸福感

- 推定結果（％は4・5段階目選択の限界効果）

	幸福度		生活満足度		仕事満足度		WLB満足度	
副業（副業希望）								
副業非希望	0.229 ***	8.4%	0.297 ***	11.4%	0.219 ***	8.1%	0.294 ***	9.5%
	26.21		33.92		25.11		33.76	
副業保有	0.171 ***	6.2%	0.185 ***	7.1%	0.230 ***	8.4%	0.094 ***	2.9%
	11.77		12.69		15.98		6.70	

- 副業希望者は非希望者と比較してウェル・ビーイングが低い状態にある
- 副業を持つことで改善されるが、仕事満足度以外は、非希望と比較してその効果は小さい。
- WLBでは副業を希望から保有に変わった効果が小さい。
- 副業の保有理由によってその影響は異なるのではないか。

5. 副業と幸福感

• 推定結果（本業正社員に限定）

- 収入目的による副業は、全体の結果と同様のものになっている。
 - 副業を持つことの効果は小さい。
- スキル目的による副業は、幸福度・生活満足度について希望者と非希望者との間の差がみられない。
- 保有することの効果は大きいのも特徴的である。WLBの満足は得られない。

収入目的による副業希望・保有

	幸福度		生活満足度		仕事満足度		WLB満足度	
副業非希望	0.259 ***	9.3%	0.327 ***	12.4%	0.242 ***	8.6%	0.294 ***	9.1%
	19.64		24.89		18.64		22.70	
副業保有	0.095 ***	3.3%	0.101 ***	3.8%	0.171 ***	5.9%	0.019	0.5%
	3.42		3.69		6.31		0.73	
サンプルサイズ	36624		36624		36624		36624	
擬似決定係数	0.0363		0.0309		0.00925		0.0129	
対数尤度	-48116.2		-48634.6		-50961		-51559	
カイ二乗値	3494.9		3003		958.5		1326.3	

スキル目的による副業希望・保有

	幸福度		生活満足度		仕事満足度		WLB満足度	
副業非希望	0.018	0.7%	0.043	1.6%	0.078 **	2.9%	0.170 ***	5.5%
	0.61		1.41		2.48		5.58	
副業保有	0.185 ***	6.9%	0.176 ***	6.8%	0.216 ***	8.1%	-0.038	-1.2%
	3.12		2.93		3.70		-0.71	
サンプルサイズ	27224		27224		27224		27224	
擬似決定係数	0.035		0.0255		0.00672		0.00865	
対数尤度	-35333.2		-35605.4		-37696.2		-38403.6	
カイ二乗値	2472.7		1802		507.2		661.4	

5. 副業と幸福感

- 推定結果（収入目的・本業非正規）
 - パート・アルバイトの副業も、正社員と同様の傾向が確認される。
 - 副業の保有を希望する状態、保有することのウェルビーイングに与える影響は、本業の雇用形態に依らないことがわかる。

収入目的・パート・アルバイト

	幸福度			生活満足度			仕事満足度			WLB満足度		
副業非希望	0.270 ***	10.0%		0.353 ***	13.5%		0.176 ***	6.6%		0.331 ***	10.5%	
	11.73			15.38			7.68			14.55		
副業保有	0.087 **	3.1%		0.093 **	3.5%		0.172 ***	6.5%		0.058	1.7%	
	2.36			2.46			4.70			1.59		
サンプルサイズ	12566			12566			12566			12566		
擬似決定係数	0.0327			0.0308			0.0146			0.0154		
対数尤度	-16860.3			-16978			-17264.4			-17697.9		
カイ二乗値	1108.1			1066.1			498.1			541.8		

収入目的・その他の雇用形態

	幸福度			生活満足度			仕事満足度			WLB満足度		
副業非希望	0.233 ***	7.7%		0.311 ***	10.9%		0.187 ***	6.5%		0.188 ***	5.8%	
	6.89			9.08			5.55			5.66		
副業保有	0.119 **	3.8%		0.056	1.9%		0.186 ***	6.5%		-0.035	-1.0%	
	2.20			1.06			3.33			-0.64		
サンプルサイズ	5101			5101			5101			5101		
擬似決定係数	0.0458			0.044			0.0199			0.00749		
対数尤度	-6891.7			-7056.5			-7138.3			-7254.1		
カイ二乗値	677			674.7			272.9			106.9		

6. これまでの研究のまとめ

- 副業に対する関心・需要の高まり
 - 働き方改革
 - 新型コロナウイルス
- 副業の多様性に目を向けることが重要
 - 副業の目的によって保有要因は異なる
 - 副業を持つことの効果は、求められるスキルと保有動機が重要
 - 主観的幸福・満足度も保有動機によって違いがある
- 副業は、ワークライフバランスに課題がある

6. これまでの研究のまとめ

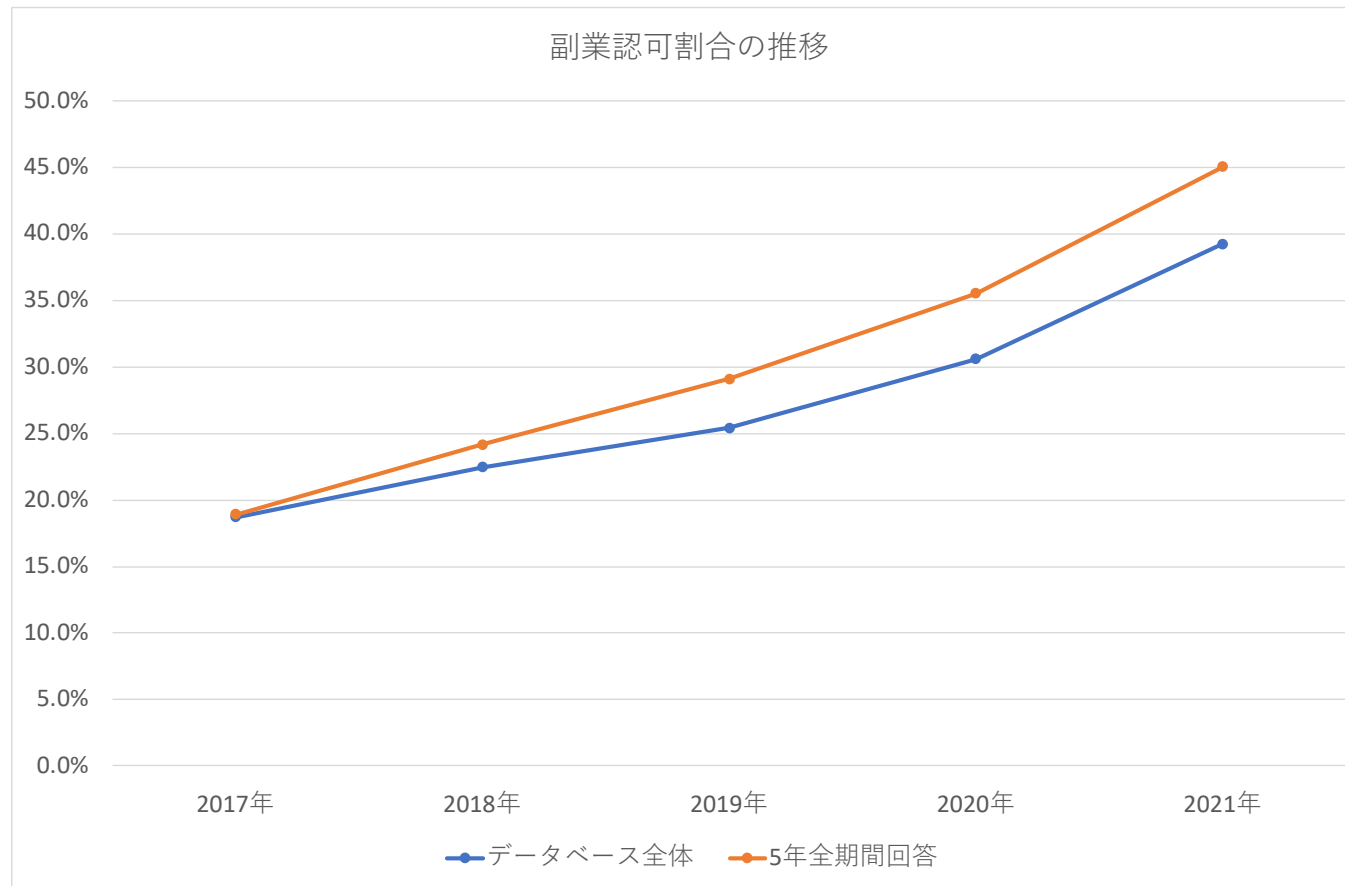
- 分析から得られるインプリケーション
 - 副業の多様性の問題
 - 促進すべき副業とは？
 - どれだけの規模で不本意副業が存在するのか？
 - 副業をすることで、本業のキャリア形成が阻害されるのか？
 - 副業とイノベーションの関係
 - 事業のアイデアを必要とする職場での効果
 - それ以外の職場では副業経験は活かされるのか？
 - 副業をするタイミング
 - 「この職場では足りない何か」

今後の研究計画

- 副業から得られる仕事の経験（独自アンケートから）
- 本業の雇用契約を含む副業保有の要因分析「就業構造基本調査」
- 副業時間帯の要因と健康への影響「社会生活基本調査」
- コロナ禍以降の副業の保有要因「家計調査」
- 副業認可と企業レベルの生産性・多角化との関係「CSR調査」

7. コロナ禍以降の副業 – 副業を認める企業の推移

- 副業を認可する企業の割合



資料) 東洋経済「CSR調査（雇用・人材活用編）」

7. コロナ禍以降の副業 – 副業を認める企業の推移

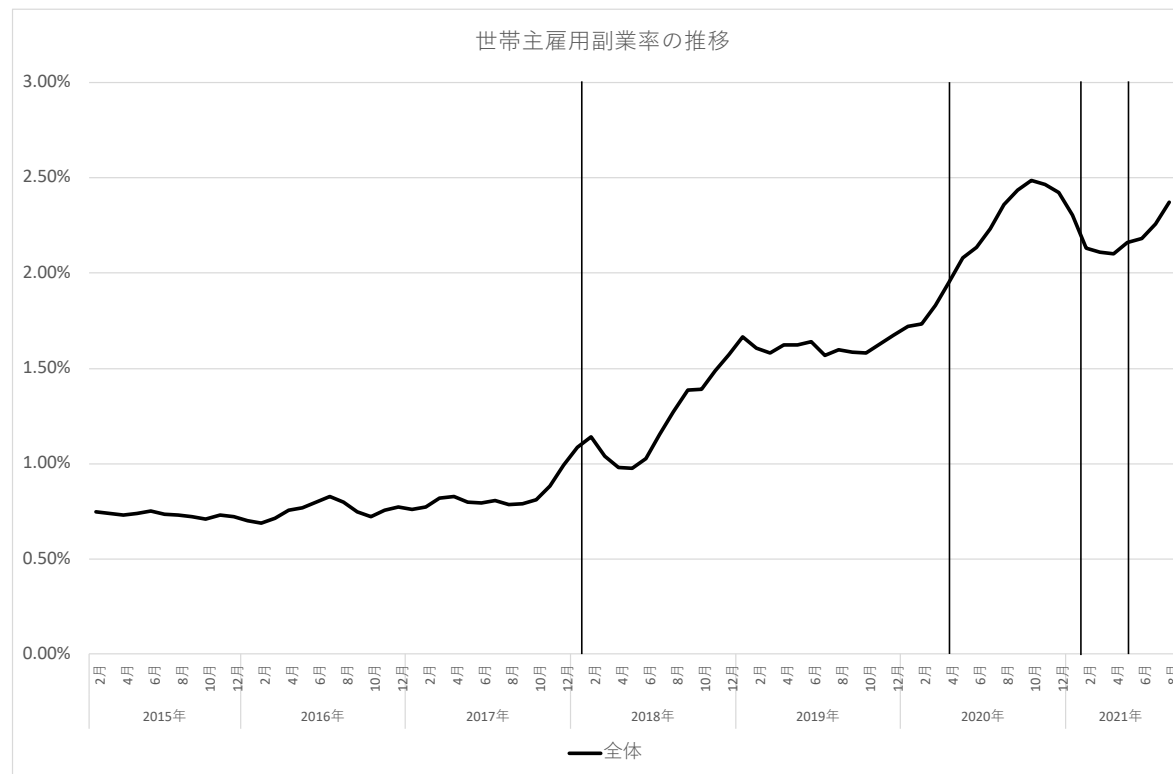
- 副業を認可する企業の割合

	2017	2018	2019	2020	2021	19対17比	21対19比
建設業	9.5%	9.4%	13.0%	16.1%	19.0%	1.36	1.47
消費関連製造業	16.3%	18.4%	25.5%	31.4%	41.2%	1.57	1.62
素材関連製造業	17.2%	21.6%	22.0%	28.1%	35.9%	1.28	1.63
機械関連製造業	14.7%	20.8%	26.8%	30.7%	39.3%	1.82	1.47
電気・ガス業	33.3%	30.0%	23.1%	26.7%	60.0%	0.69	2.60
運輸業	11.1%	13.3%	11.1%	20.5%	26.2%	1.00	2.36
情報通信業	35.4%	35.3%	38.0%	47.0%	53.8%	1.07	1.42
卸売・小売業	14.1%	18.8%	20.3%	25.0%	35.9%	1.43	1.77
金融業・不動産業	27.9%	33.8%	31.5%	34.4%	44.7%	1.13	1.42
サービス業	27.9%	31.3%	35.7%	39.6%	45.8%	1.28	1.28

資料) 東洋経済「CSR調査（雇用・人材活用編）」

7. コロナ禍以降の副業 - 「家計調査」雇用副業率の推移

- 副業率の推移



資料) 総務省「家計調査」より集計。二人以上世帯、世帯主

7. コロナ禍以降の副業 – 「就業構造基本調査」の変更

- 副業に関する項目の拡充
 - 副業の従業上の地位、雇用形態
 - 副業の労働時間
 - 業種、職業
- 分析できること
 - 本業と副業の職業の関係
 - 副業の労働供給関数の推定
 - 「国民経済計算」の就業者労働時間の把握

おもな仕事以外の仕事について	A14 あなたはおもな仕事のほかに別の仕事もしていますか	している ↓	していない (A19へ)
	A15 勤め先・実店舗の有無	雇われている人のうち 正規の職員・従業員 正規の職員・従業員以外 役員・職員が他にいる 会社などの役員 役員・職員が他にいない 実店舗あり 実店舗なし 自営業主 雇人がいる 雇人がいない 実店舗あり 実店舗なし 自家営業の手伝い 内職 実店舗あり 実店舗なし	
	A16 勤め先・業主などの事業の内容 ・『調査票の記入のしかた』を参考にして詳しく記入してください		
	A17 本人の仕事の内容 ・『調査票の記入のしかた』を参考にして詳しく記入してください		
	A18 仕事の規則性及び1週間の就業時間 ・ある季節だけ仕事をしている場合も「不規則」とします	規則的か否か 不規則 だいたい規則的 → 時間	

参考文献

- Kawakami, A., (2019) "Multiple job holding as a strategy for skills development". *Japan and the World Economy* 49.
- Panos, G.A., Pouliakas, K., and Zangelidis, A., (2014) "Multiple Job Holding, Skill Diversification, and Mobility". *Industrial Relations* 53, 223–272.
- Perlman, R., (1966) "Observations on Overtime and Moonlighting". *Southern Economic Journal* 33, 237–244.
- 石山恒貴, (2018) 『越境的学習のメカニズム』 福村出版.
- 尾曲美香, (2019) 「育児休業取得による父親の変化－職業生活と家庭生活に着目して－」 『生活社会科学研究』 第26号, pp. 29-42.
- 川上淳之, (2017) 「誰が副業を持っているのか? : インターネット調査を用いた副業保有の実証分析」 『日本労働研究雑誌』 第59号, pp. 102-119.
- 川上淳之, (2021) 『「副業」の研究—多様性がもたらす影響と可能性』 慶應義塾大学出版会.
- 中原淳, (2010) 『職場学習論』 東京大学出版会.